

シンポジウム「大学教育の再構築—専門職化と教養教育再編の狭間で—」

司会 大塚 雄 作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

（大塚） それでは、シンポジウムに入らせていただきます。テーマを「大学教育の再構築—専門職化と教養教育再編の狭間で—」と題して行いたいと思います。

皆さんのお手元に発表論文集が行っているかと思います。5ページに簡単に趣旨について述べさせていただいております。先ほども寺崎先生のお話の中に横文字の学部の話がありました。最近では横文字の大学も増えてまいりました。私などは「デジタルハリウッド」という言葉を最初に聞いたときは、まさか大学の名前だとは全然思いませんで、相変わらず「無常識」だと言われたりもしましたが、そういった特殊な大学も増えてくるなど、大学の多様化はますます進んでいます。また、大学院教育においても、専門職大学院等、非常に領域の狭い特化した形で専門教育が行われ始めています。

そういった専門化が進めば進むほど、やはり大学教育、あるいは教養教育の在り方が、逆に問われてくるということがあるのだと思います。専門職大学院が増えてきておりますが、特殊な専門技能を身につけるという意味では専門学校などもありますので、その差別化をどうしていくかということを考えますと、大学教育、大学院教育に課せられる課題にまた新たな側面が付け加えられてきているのだろうと思います。そういった中で、大学教育を改めて再考してみようということで、今日は4人の先生がたから、その辺をめぐっていろいろな角度から話題提供をお願いしております。

最初に、京都大学の土井真一先生です（拍手）。土井先生は、現在の所属は大学院の法学研究科の教授で、ご専門は憲法と伺っておりますが、京都大学でもいわゆるロースクール、法科大学院を立ち上げるご苦勞をされてきているところですよ。そういう視点から大学の教育について話題提供をしていただく予定にしています。

続きまして、そのお隣は小笠原正明先生です（拍手）。小笠原先生は、現在は東京農工大学の大学教育センター教授ですが、昨年まで、北海道大学の高等教育機能開発総合センターにおられました。ご専門は化学です。特に、化学などの領域では、先ほども寺崎先生が触れられましたが、専門基礎や教養教育としての位置づけ、専門教育に向けての関連性など、大学教育全般にわたったいろいろな課題が含まれており、そういった広い視野をもってその課題について考えてもらっています。そういったご経験を踏まえて、大学教育の在り方について話題提供をしていただきます。

そのお隣は、慶應義塾大学文学部教授の松浦良充先生です（拍手）。松浦先生は、日本教育学会、日本比較教育学会、教育思想史学会などをフィールドにして、特に教養教育について研究を深めていらっしゃいます。そういうお立場から大学教育について論じていただきます。

最後に、私どものセンターの助教授である大山泰宏先生です（拍手）。大山さんは臨床心理学がご専門ですが、このセンターにも長いということもありまして、大学教育には一言を持っておられます。そこで、大山さんにはある意味で指定討論的な意味も含めて、このシンポジウムの論点を整理していただくと共に、大山さん独自の視点からいくつかの問題点も提起していただこうと思っています。

それでは、早速、先生方から話題を提供していただきたいと思います。まず、プログラム14ページの「高度専門職の養成と教養教育—法律専門職を中心に—」ということで、土井真一先生からご発表をお願いいたします。